

第44回 県政に関する世論調査の結果について

平成24年12月25日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2247

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は本年度1回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、子育てと福祉、観光、千葉県の農水産物、防災に関する取り組み、地方分権、千葉県の施策・政策、広報・広聴活動について県民の意識調査及び「県政への要望」についての調査を行いました。

1 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。
- (4) 調査方法 郵送法(郵送配付 - 郵送回収)
- (5) 調査時期 平成24年8月21日～9月10日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,550(51.7%)

3 調査の項目

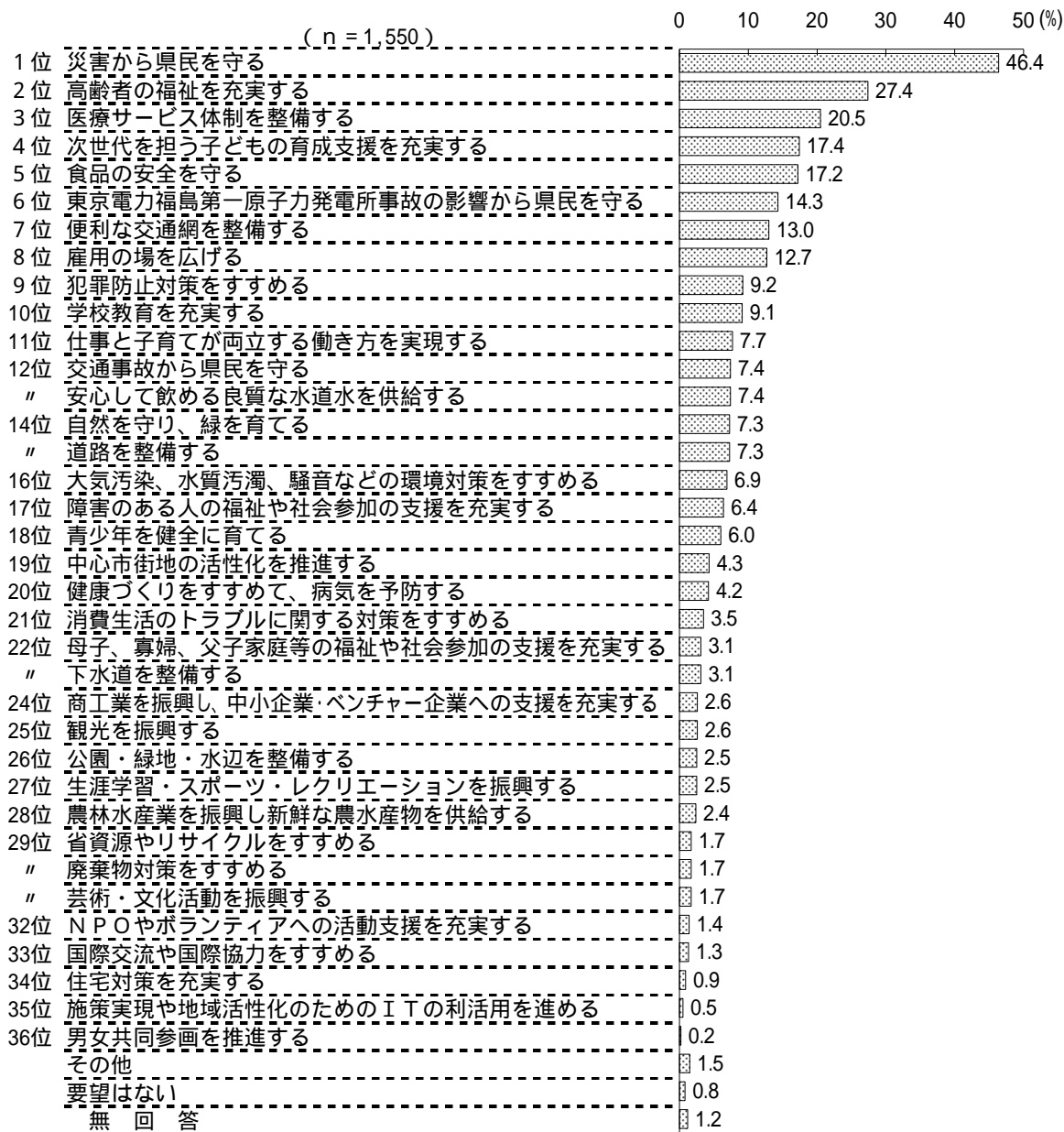
- (1) 県民意識調査
 - 環境と生活について
 - 健康について
 - 子育てと福祉について
 - 観光について
 - 千葉県の農水産物について
 - 防災に関する取り組みについて
 - 地方分権について
 - 千葉県の施策・政策について
 - 広報・広聴活動について
- (2) 県政への要望

4 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

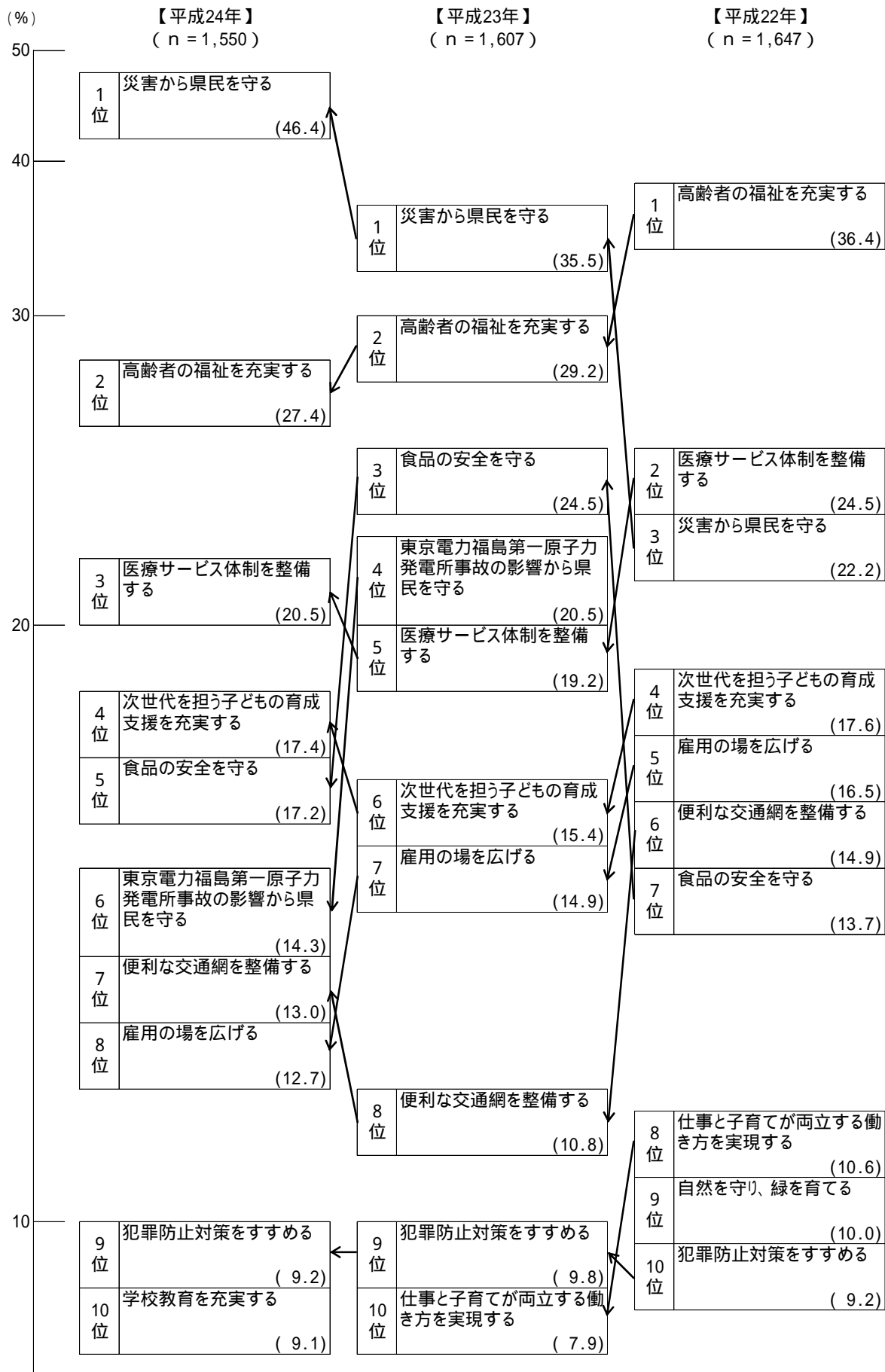
(複数回答：3つまで)



今回調査の主な特徴

1. 「災害から県民を守る」(46.4%)が4割台半ば、「高齢者の福祉を充実する」(27.4%)が約3割、「医療サービス体制を整備する」(20.5%)が2割で、県民の要望が特に高い。
2. 「災害から県民を守る」は23年度(35.5%)に引き続き第1位(46.4%)で、10.9ポイントの増加となっている。
3. 「高齢者の福祉を充実する」は23年度(29.2%)に引き続き第2位(27.4%)となっている。
4. 「医療サービス体制を整備する」は23年度の第5位(19.2%)から第3位(20.5%)へ、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」は23年度の6位(15.4%)から第4位(17.4%)へと順位を上げている。
5. 「食品の安全を守る」は23年度の第3位(24.5%)から第5位(17.2%)へ、「東京電力福島第一原子力発電所事故の影響から県民を守る」は23年度の第4位(20.5%)から第6位(14.3%)へと順位を下げている。

県政への要望 / 上位 10 項目の推移

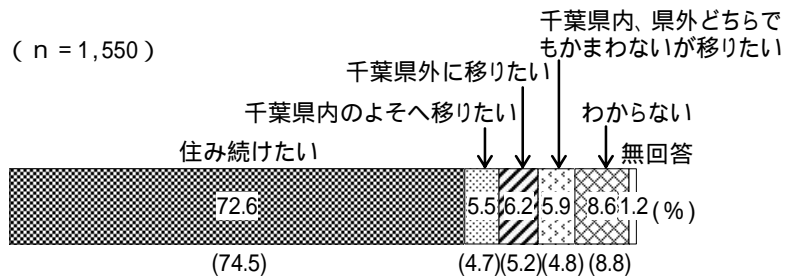


2 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(72.6%)は7割を超えている。一方、「千葉県外に移りたい」は6.2%となっている。

また、「住み続けたい」と「千葉県内のよそへ移りたい」(5.5%)をあわせた『千葉県内に住み続けたい』(78.1%)は約8割となっている。



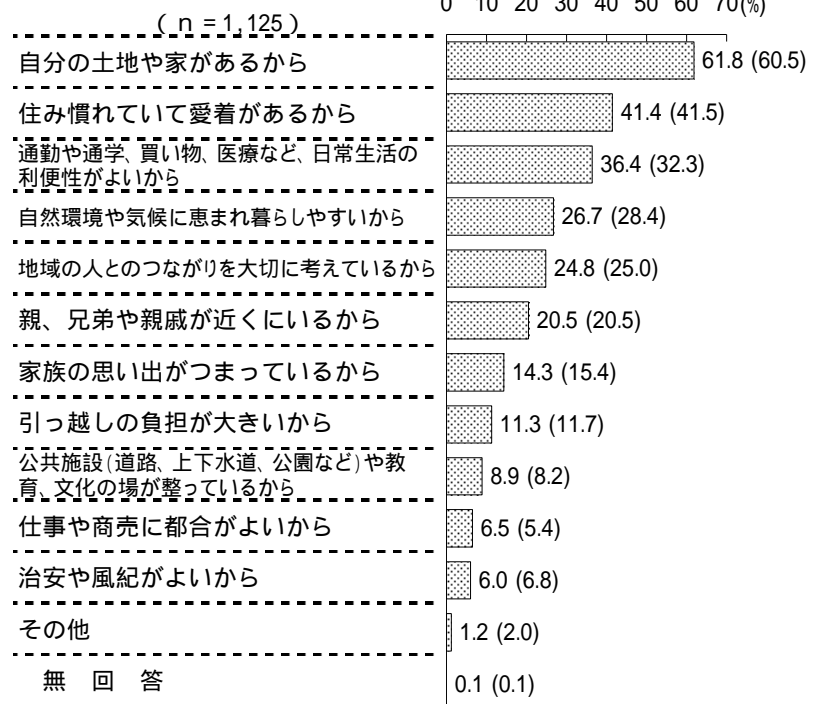
注) 下段の()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

「住み続けたい」と回答した1,125人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(61.8%)が6割を超え、以下、「住み慣れていて愛着があるから」(41.4%)、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性がよいから」(36.4%)が続く。

(複数回答：3つまで)

注) 下段の()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

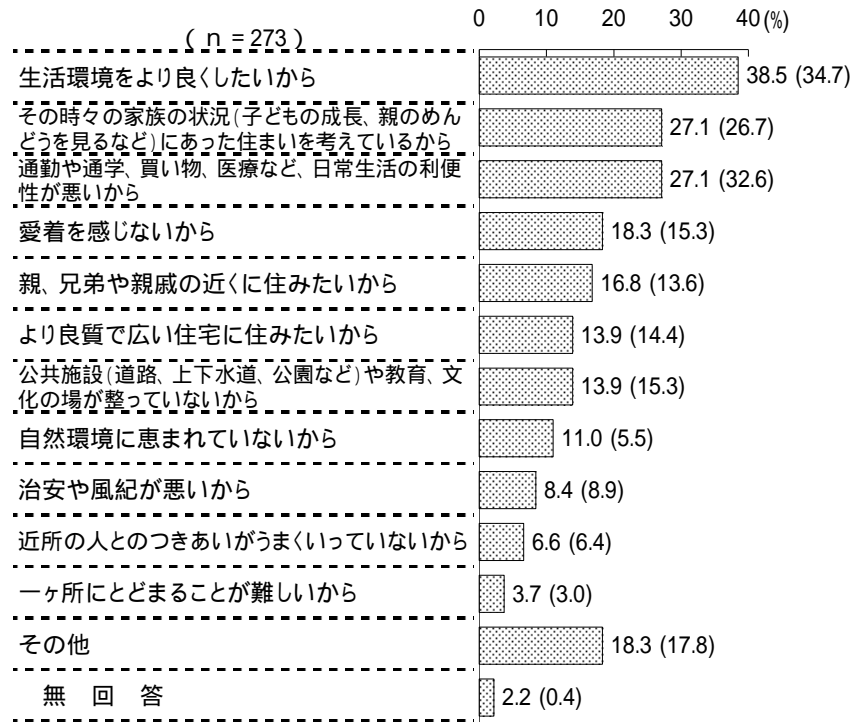


注)()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(1 - 2) 移りたい理由

(複数回答 : 3 つまで)

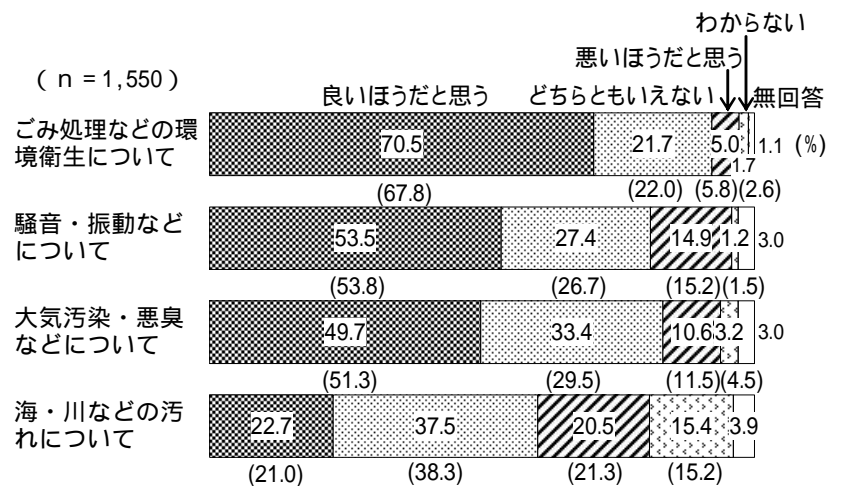
「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した273人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(38.5%)が約4割で最も高く、以下、「その時々家族の状況にあった住まいを考えているから」(27.1%)、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性が悪いから」(27.1%)と続く。



注) () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(2) 生活環境について

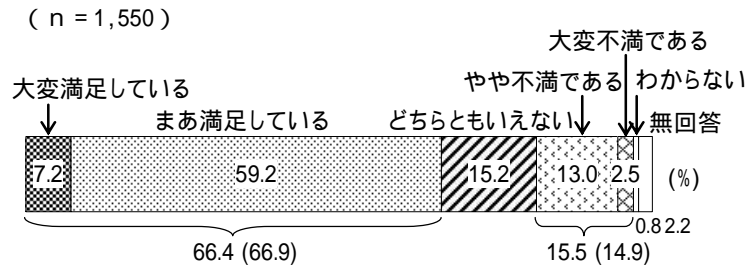
生活環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは「ごみ処理などの環境衛生について」(70.5%)で7割となっている。以下、「騒音・振動などについて」(53.5%)が5割台半ば、「大気汚染・悪臭などについて」(49.7%)が約5割となっている。一方、「海・川などの汚れについて」は、「良いほうだと思う」(22.7%)と「悪いほうだと思う」(20.5%)はともに2割台となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(3) 生活環境全般の満足度

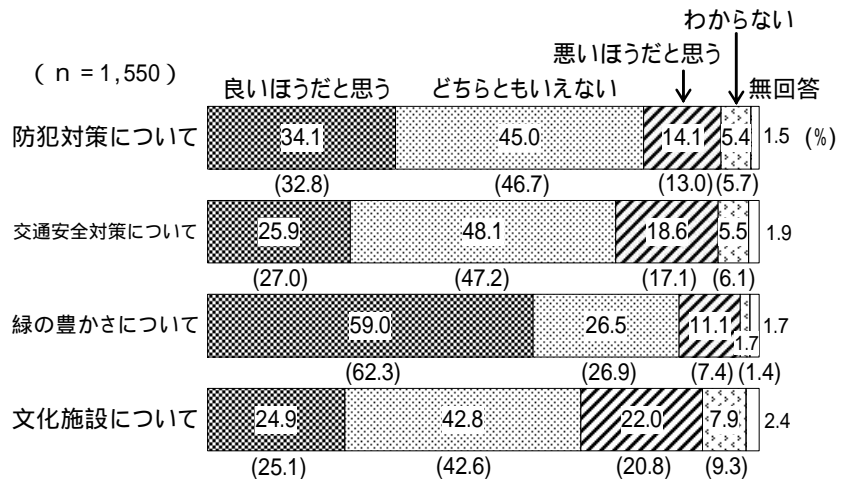
生活環境全般に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(7.2%)と「まあ満足している」(59.2%)を合わせた『満足している』(66.4%)は6割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」(13.0%)と「大変不満である」(2.5%)を合わせた『不満である』(15.5%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(4) 自然・周辺環境について

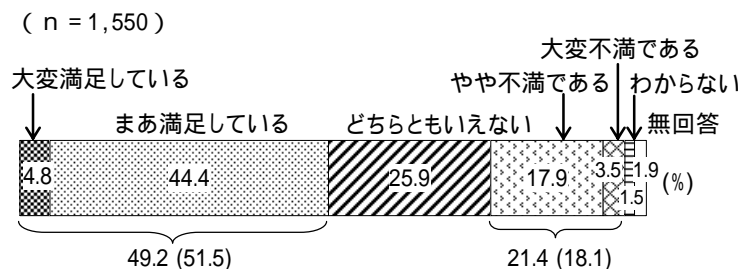
自然・周辺環境に関する4つの項目についてそれぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは緑の豊かさについて(59.0%)が約6割で、次に防犯対策について(34.1%)が3割台半ばとなっている。一方、それ以外の2項目については、「良いほうだと思う」がいずれも2割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(5) 自然・周辺環境全般の満足度

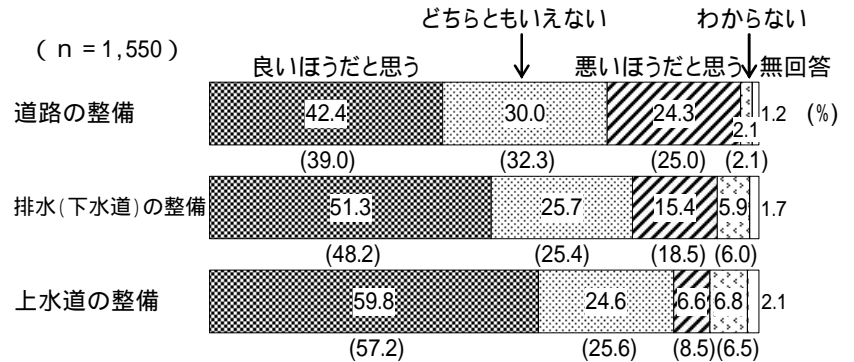
自然・周辺環境に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(4.8%)と「まあ満足している」(44.4%)を合わせた『満足している』(49.2%)は約5割となっている。一方、「やや不満である」(17.9%)と「大変不満である」(3.5%)を合わせた『不満である』(21.4%)は2割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成23年度の調査結果を示している。

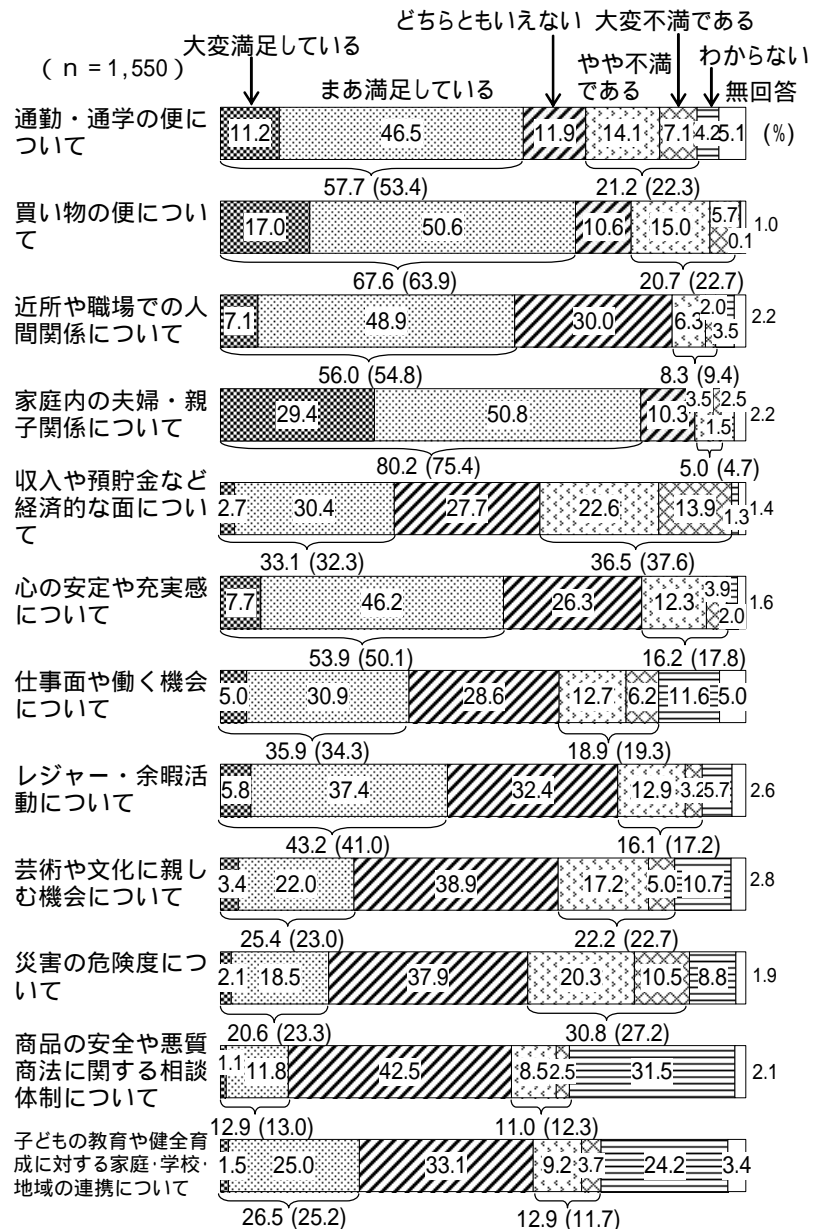
(6) 基盤整備について

基盤整備に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、上水道の整備（59.8%）で約6割となっている。次いで、排水（下水道）の整備（51.3%）が5割を超えている。道路の整備は「良いほうだと思う」（42.4%）が4割を超えている。



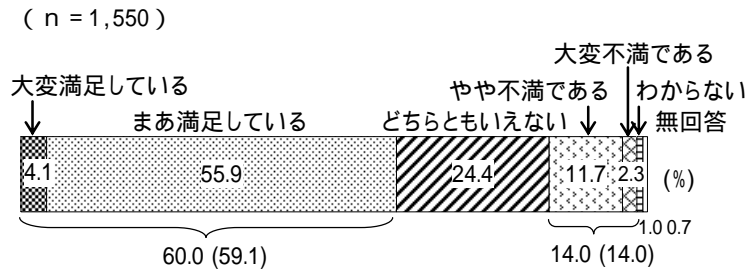
(7) 現在の生活の満足度

現在の生活に関する12個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』が最も高いのは、家庭内の夫婦・親子関係について（80.2%）で8割となっている。以下、買い物の便について（67.6%）、通勤・通学の便について（57.7%）と続く。「やや不満である」と「大変不満である」を合わせて『不満である』とすると、12項目中10項目で『満足している』が『不満である』より高い中、収入や預貯金など経済的な面について、災害の危険度について の2項目は、『不満である』が『満足している』を上回っている。



(8) 住生活全般の満足度

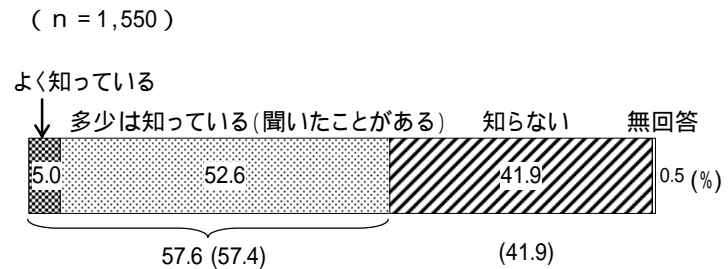
現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）に関する満足度を聞いたところ、「大変満足している」（4.1%）と「まあ満足している」（55.9%）を合わせた『満足している』（60.0%）は6割となっている。一方、「やや不満である」（11.7%）と「大変不満である」（2.3%）を合わせた『不満である』（14.0%）は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(9) 市民活動団体の活動の認知度

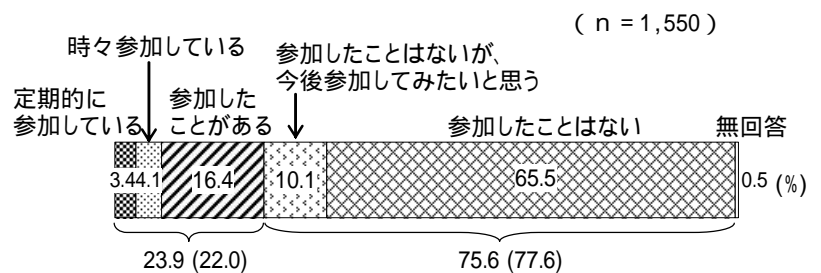
市民活動団体の活動の認知度を聞いたところ、「多少は知っている（聞いたことがある）」（52.6%）は5割を超えて最も高く、これと「よく知っている」（5.0%）を合わせた『知っている』（57.6%）は約6割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(10) 市民活動団体の活動への参加経験

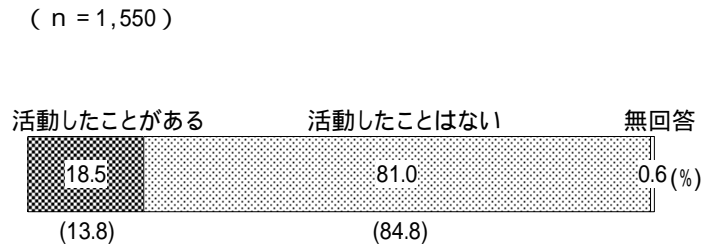
市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」（3.4%）と「時々参加している」（4.1%）、「参加したことがある」（16.4%）を合わせた『参加している』（23.9%）は2割台半ばとなっている。一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」（10.1%）は1割、「参加したことはない」（65.5%）は6割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(11) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるかを聞いたところ、「活動したことがある」(18.5%)は約2割となっている。一方、「活動したことはない」(81.0%)は8割を超えている。

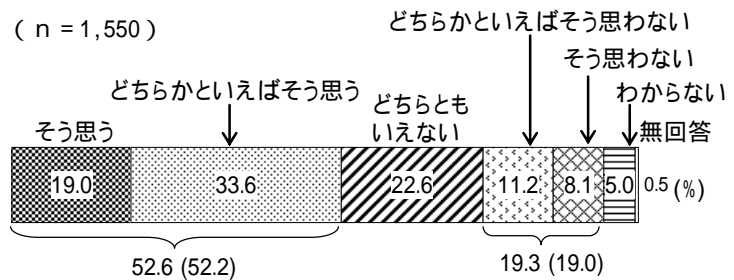


注) 下段の()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

3 健康について

(1) 健康づくりに取り組むことができる環境

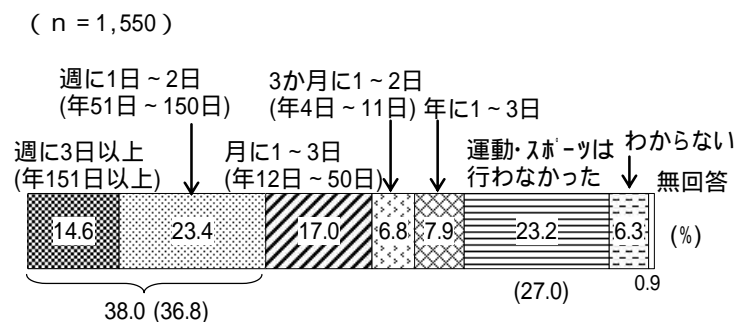
自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(19.0%)と「どちらかといえばそう思う」(33.6%)を合わせた『そう思う』(52.6%)は5割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.2%)と「そう思わない」(8.1%)を合わせた『そう思わない』(19.3%)は約2割となっている。



注) 下段の()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(2) 健康づくりのための運動

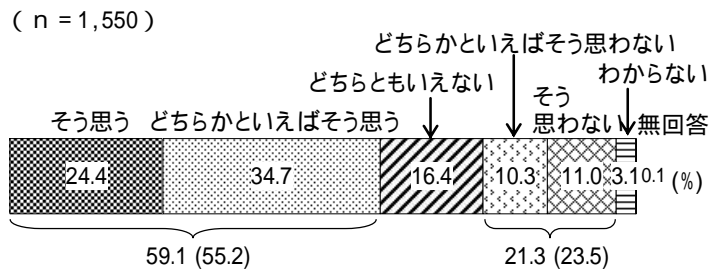
健康づくりなどのために1年間に何日くらい運動やスポーツを行ったかを聞いたところ、「週に3日以上(年151日以上)」(14.6%)、「週に1日~2日(年51日~150日)」(23.4%)を合わせた『週1日以上運動した』(38.0%)は約4割となっている。一方、「運動・スポーツは行わなかった」(23.2%)は2割台半ばとなっている。



注) 下段の()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(3) 安心して受診できる医療体制

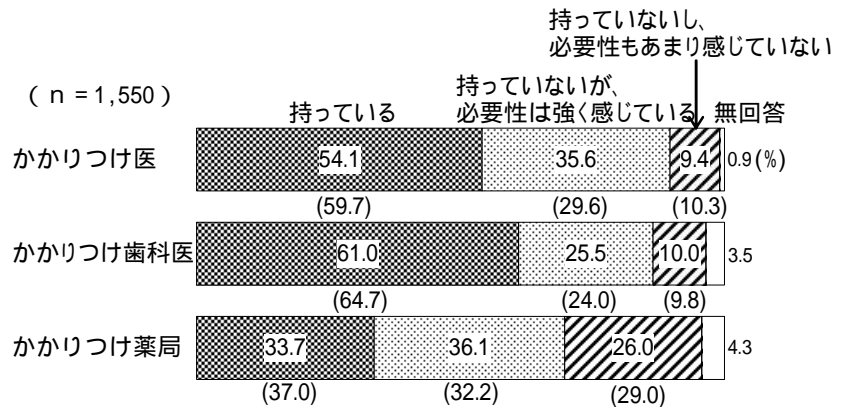
住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(24.4%)と「どちらかといえばそう思う」(34.7%)を合わせた『そう思う』(59.1%)は約6割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.3%)と「そう思わない」(11.0%)を合わせた『そう思わない』(21.3%)は2割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(4) かかりつけ医の有無

かかりつけの医師、歯科医、薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は歯科医(61.0%)で6割を超え、医師(54.1%)が5割台半ばであるが、薬局(33.7%)では3割台半ばである。また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は薬局(36.1%)と医師(35.6%)でともに3割台半ばとなっている。「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は薬局(26.0%)で2割台半ばとなっている。

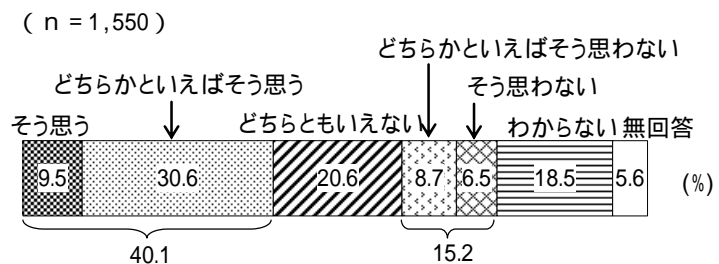


注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

4 子育てと福祉について

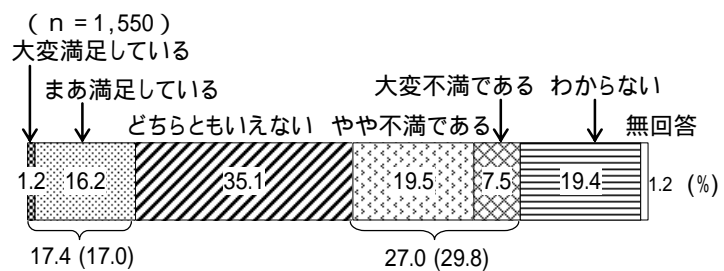
(1) 安心して子育てできる環境

自分が安心して子育てできる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(9.5%)と「どちらかといえばそう思う」(30.6%)を合わせた『そう思う』(40.1%)は4割である。一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.7%)と「そう思わない」(6.5%)を合わせた『そう思わない』(15.2%)は1割台半ばである。



(2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策について

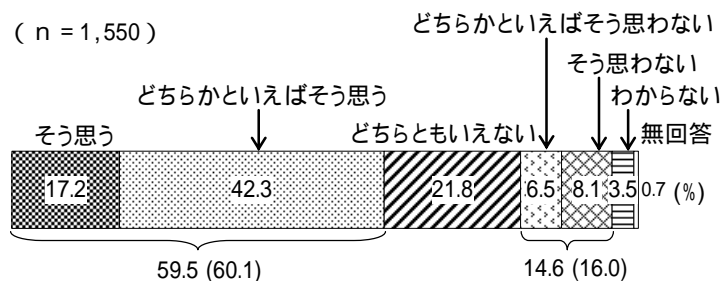
お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度を聞いたところ、「大変満足している」(1.2%)と「まあ満足している」(16.2%)を合わせた『満足している』(17.4%)が約2割となっている。一方、「やや不満である」(19.5%)と「大変不満である」(7.5%)を合わせた『不満である』(27.0%)は約3割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(3) 地域での生活

地域において、明るく楽しく生活していると思うか聞いたところ、「そう思う」(17.2%)と「どちらかといえばそう思う」(42.3%)を合わせた『そう思う』(59.5%)が約6割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(6.5%)と「そう思わない」(8.1%)を合わせた『そう思わない』(14.6%)は1割台半ばとなっている。



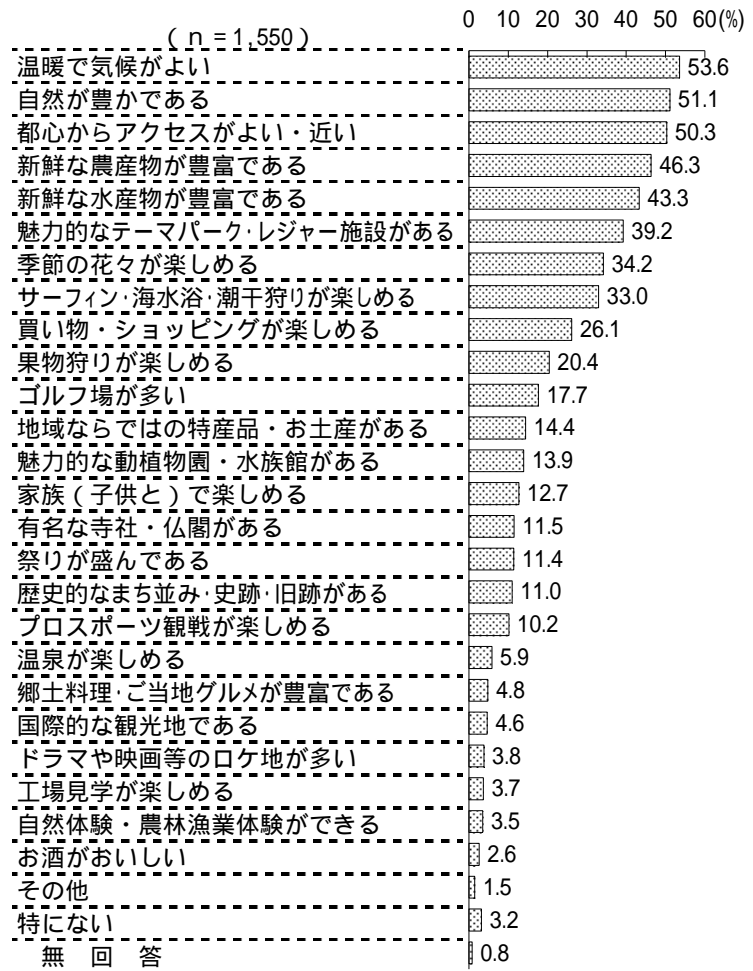
注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

5 観光について

(1) 千葉県の魅力

(複数回答: いくつでも)

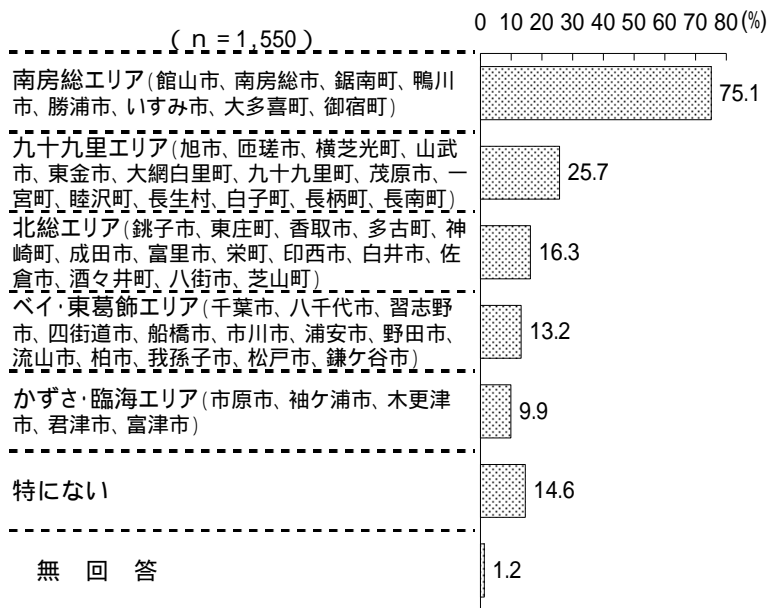
千葉県の魅力は何だと思うか聞いたところ、「温暖で気候がよい」(53.6%)が5割台半ばで最も高くなっている。以下、「自然が豊かである」(51.1%)、「都心からアクセスがよい・近い」(50.3%)、「新鮮な農産物が豊富である」(46.3%)、「新鮮な水産物が豊富である」(43.3%)が続く。



(2) 県内で旅行に行きたいエリア

(複数回答: いくつでも)

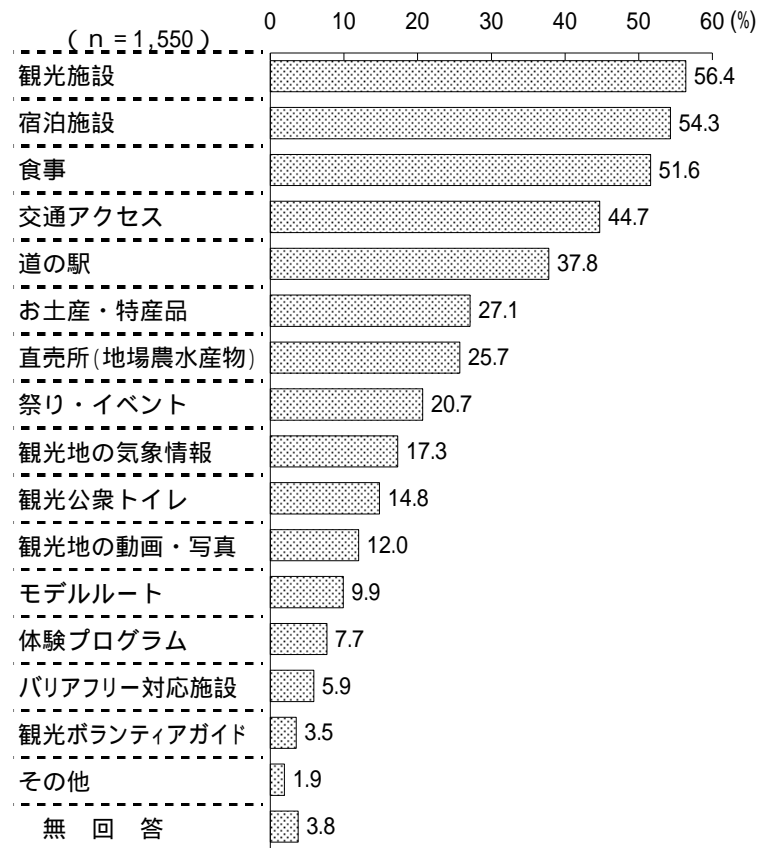
県内で旅行に行きたいエリアはどこか聞いたところ、「南房総エリア」(75.1%)が7割台半ばで最も高くなっている。以下、「九十九里エリア」(25.7%)、「北総エリア」(16.3%)、「ベイ・東葛飾エリア」(13.2%)、「かずさ・臨海エリア」(9.9%)が続く。



(3) 県内を観光する際に事前に知りたい情報

(複数回答 : いくつでも)

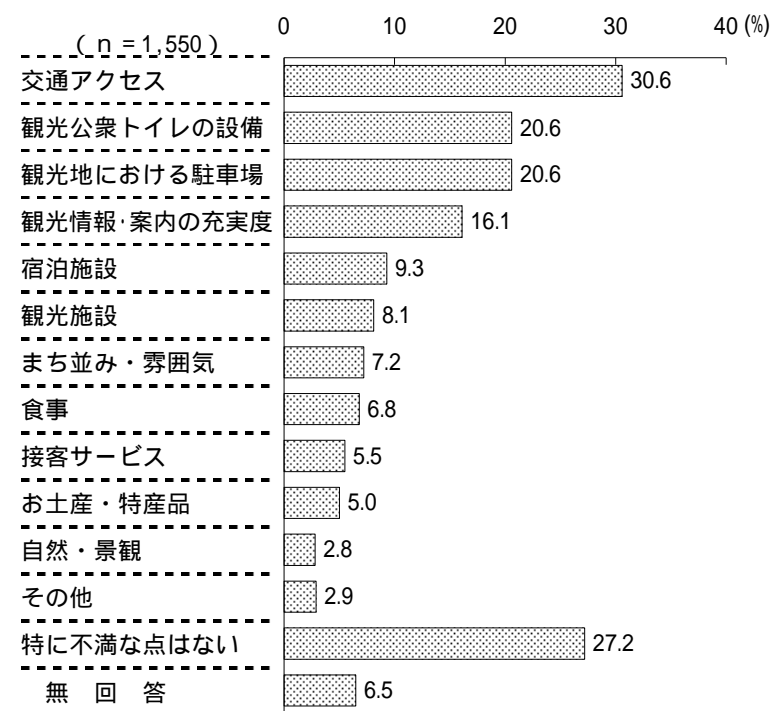
県内を観光する際に事前に知りたい情報は何か聞いたところ、「観光施設」(56.4%)と「宿泊施設」(54.3%)がともに5割台半ばで高くなっている。以下、「食事」(51.6%)、「交通アクセス」(44.7%)、「道の駅」(37.8%)が続く。



(4) 県内を観光するときの不満

(複数回答 : いくつでも)

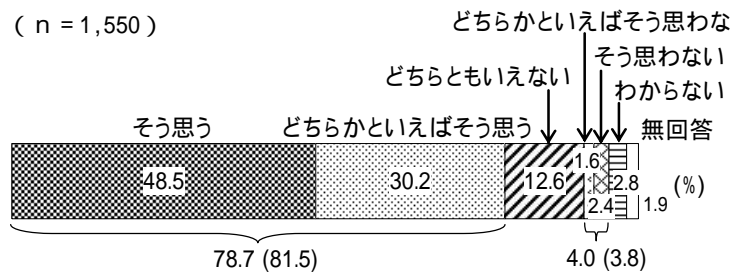
県内を観光する際に不満を感じることを聞いたところ、「交通アクセス」(30.6%)が3割で最も高くなっている。以下、「観光公衆トイレの設備」(20.6%)、「観光地における駐車場」(20.6%)、「観光情報・案内の充実度」(16.1%)が続く。



6 千葉県の農水産物について

(1) 千葉県産農水産物の購入意向

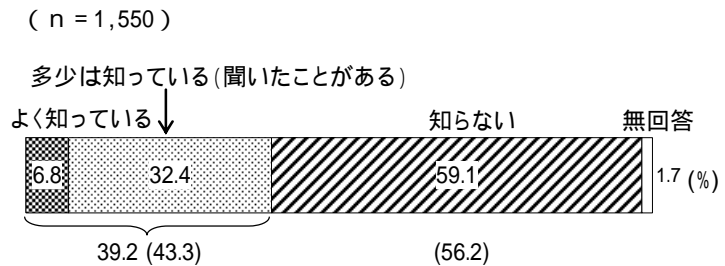
千葉県産農水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(48.5%)が約5割で最も高く、「どちらかといえばそう思う」(30.2%)は3割である。これらを合わせた『そう思う』(78.7%)は約8割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(1.6%)と「そう思わない」(2.4%)を合わせた『そう思わない』(4.0%)は1割未満になっている。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(2) 「ちばエコ農産物」の認知度

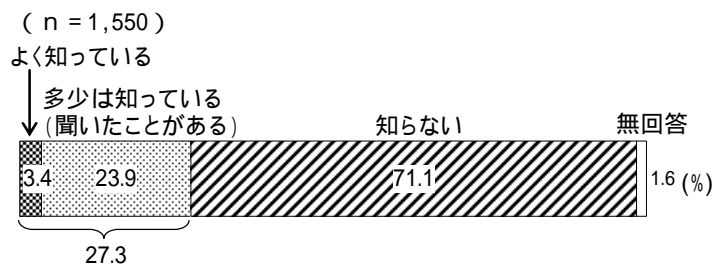
「ちばエコ農産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(6.8%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(32.4%)を合わせた『知っている』(39.2%)は約4割となっている。一方、「知らない」(59.1%)は約6割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度

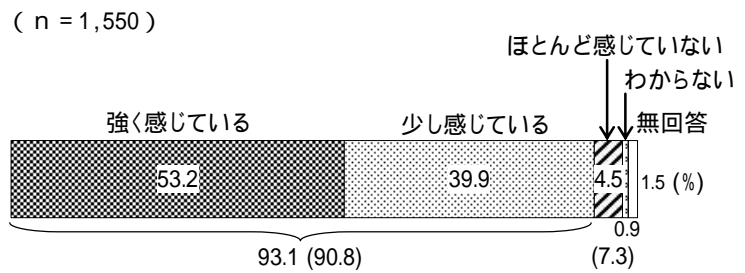
「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(3.4%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(23.9%)を合わせた『知っている』(27.3%)は約3割となっている。一方、「知らない」(71.1%)は7割を超えている。



7 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

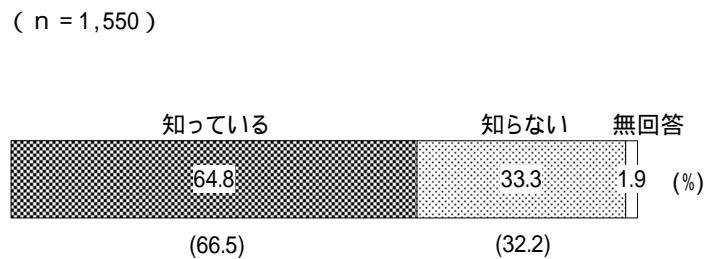
大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(53.2%)と「少し感じている」(39.9%)を合わせた『感じている』(93.1%)は9割台半ばとなっている。一方、「ほとんど感じていない」(4.5%)は1割未満である。



注) 下段の()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

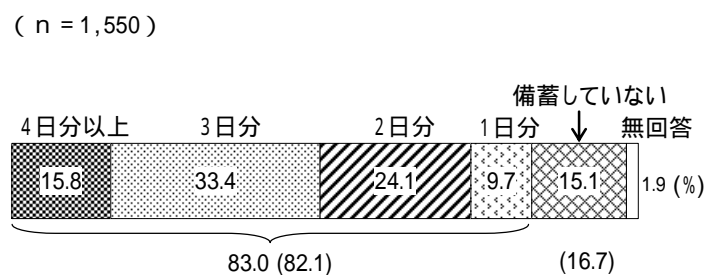
「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」(64.8%)が6割台半ばとなっている。一方、「知らない」(33.3%)は3割台半ばとなっている。



注) 下段の()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(3) 飲料水や食料の備蓄状況

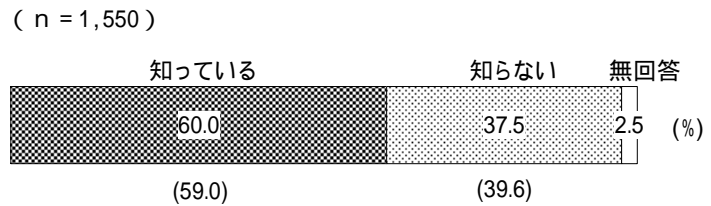
飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(33.4%)が3割台半ば、「2日分」(24.1%)は2割台半ばで、これに「4日分以上」(15.8%)と「1日分」(9.7%)の4つを合わせた『備蓄している』(83.0%)は8割台半ばとなっている。「備蓄していない」(15.1%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているか聞いたところ、「知っている」(60.0%)は6割となっている。一方、「知らない」(37.5%)は約4割となっている。

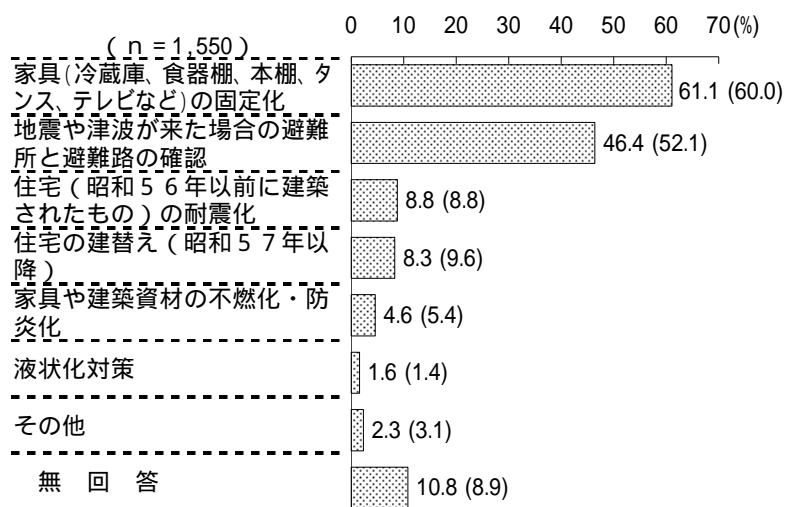


注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(5) 地震の被害を防ぐための対策

(複数回答：いくつでも)

地震の被害を防ぐための対策を聞いたところ、「家具(冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど)の固定化」(61.1%)が6割を超えて最も高くなっており、次いで「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」(46.4%)が4割台半ばとなっている。

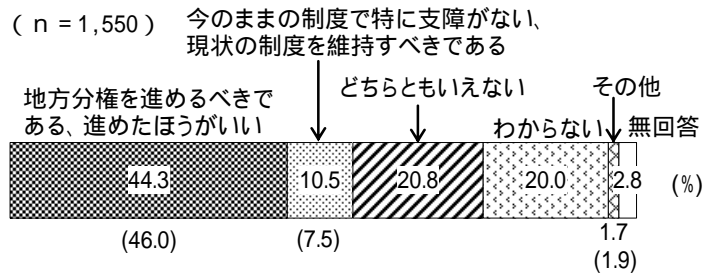


注) () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

8 地方分権について

(1) 地方分権を今後さらに進めていくべきか否か

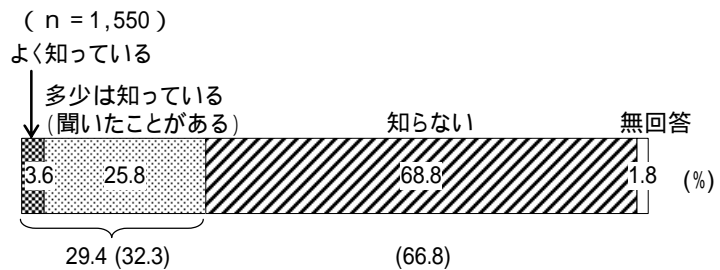
地方分権を今後さらに進めていくべきかどうかを聞いたところ、「地方分権を進めるべきである、進めたほうがいい」(44.3%)は4割台半ばとなっていて、「今のままの制度で支障がない、現状の制度を維持すべきである」(10.5%)は1割となっている。また、「どちらともいえない」(20.8%)、「わからない」(20.0%)はともに2割である。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(2) 「地方分権」による基準変更の認知度

今まで国が定めていた保育所や老人ホームの施設の基準などを都道府県の条例で定められるようになったことを知ってるか聞いたところ、「よく知っている」(3.6%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(25.8%)を合わせた『知っている』(29.4%)は約3割である。一方、「知らない」(68.8%)は約7割である。

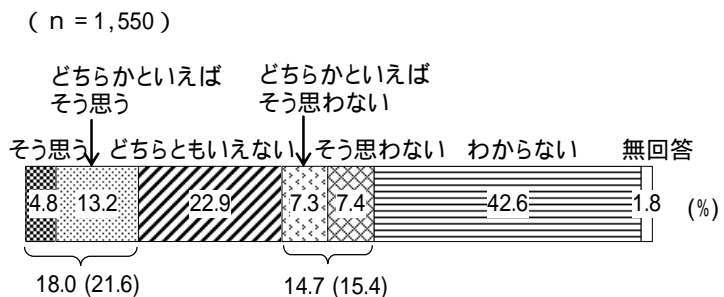


注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

9 千葉県の施策・政策について

(1) 県民の視点に立った政策評価に基づく県政運営

政策評価の結果が県民の視点に立った県政運営に役立っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.8%)と「どちらかといえばそう思う」(13.2%)を合わせた『そう思う』(18.0%)は約2割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.3%)と「そう思わない」(7.4%)を合わせた『そう思わない』(14.7%)は1割台半ばとなっている。また、「わからない」(42.6%)は4割を超えている。

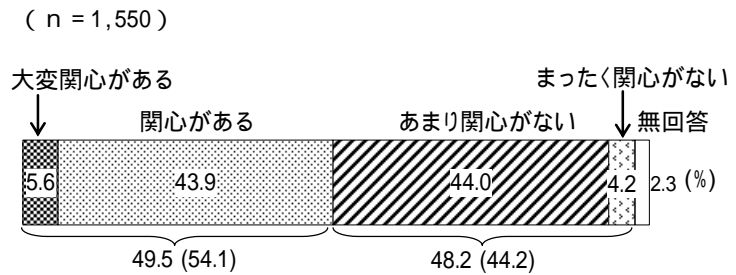


注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

10 広報・広聴活動について

(1) 県の施策や政策などについての関心度

県の施策や政策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(5.6%)と「関心がある」(43.9%)を合わせた『関心がある』(49.5%)は約5割である。一方、「あまり関心がない」(44.0%)と「まったく関心がない」(4.2%)を合わせた『関心がない』(48.2%)も約5割となっている。

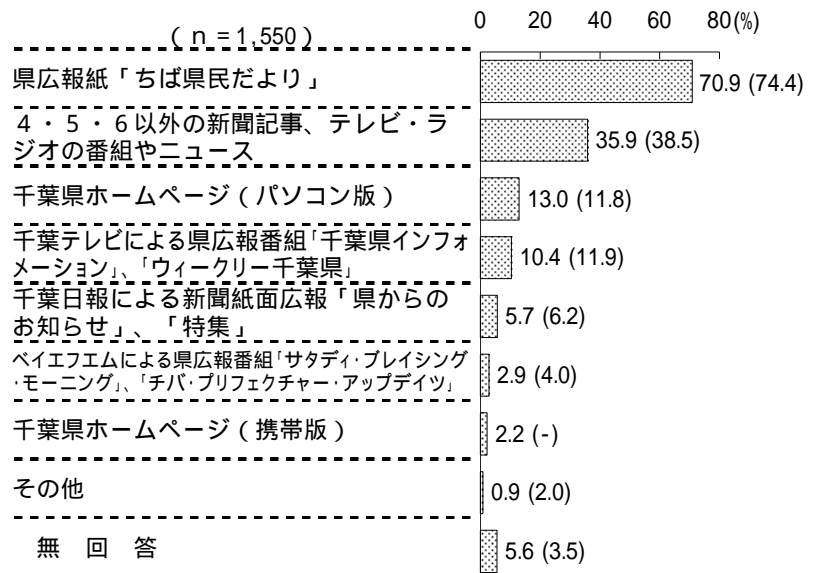


注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(70.9%)が7割で最も高く、以下、「4・5・6以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(35.9%)が3割台半ば、「千葉県ホームページ(パソコン版)」(13.0%)が1割台半ばで続いている。

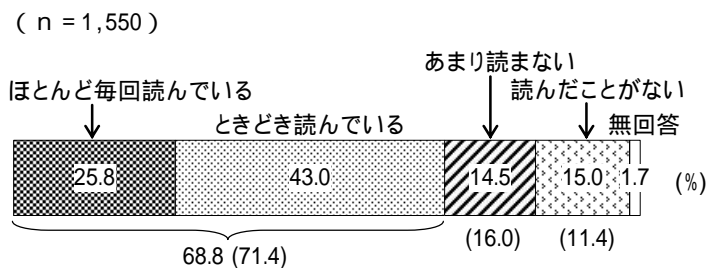


() 「4・5・6以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、4・5・6とは、『千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、「特集」』、『千葉県テレビによる県広報番組「千葉県インフォメーション」、「ウィークリー千葉県」』、『ペイエフエムによる県広報番組「サタディ・プレイシング・モーニング」、「チバ・プリフェクチャー・アップデイツ」』を指す。

注)() 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

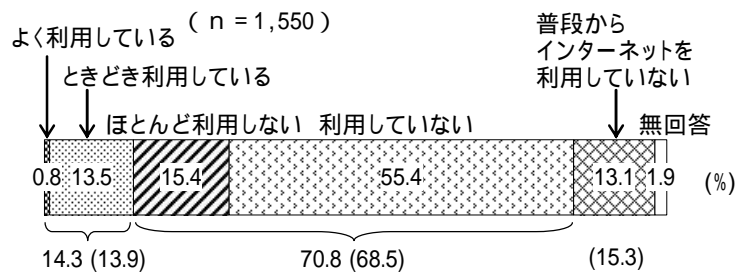
県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(25.8%)は2割台半ばで、「ときどき読んでいる」(43.0%)は4割台半ばで、これらを合わせた『読んでいる』(68.8%)は約7割となっている。一方、「あまり読まない」(14.5%)と「読んだことがない」(15.0%)はともに1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(4) 千葉県ホームページの利用頻度

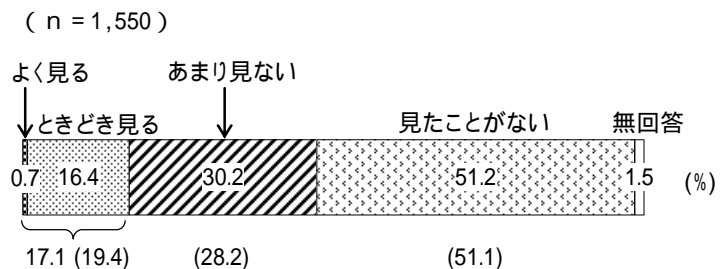
千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(0.8%)、「ときどき利用している」(13.5%)を合わせた『利用している』(14.3%)は1割台半ばとなっている。一方、「ほとんど利用しない」(15.4%)と「利用していない」(55.4%)を合わせた『利用していない』(70.8%)は7割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(5) 県の広報番組の視聴状況

県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(0.7%)と「ときどき見る」(16.4%)を合わせた『見る』(17.1%)は約2割である。一方、「あまり見ない」(30.2%)は3割で、「見たことがない」(51.2%)は5割を超えている。

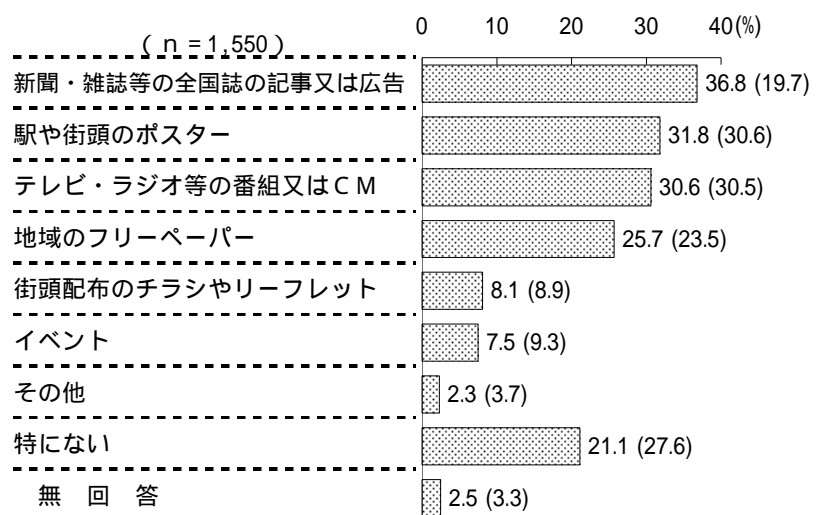


注) 下段の () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(6) 県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況

(複数回答: いくつでも)

県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況を聞いたところ、「新聞・雑誌等の全国誌の記事又は広告」(36.8%)が3割台半ばで最も高くなっている。以下、「駅や街頭のポスター」(31.8%)と「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(30.6%)がともに3割台、「地域のフリーペーパー」(25.7%)が2割台半ばで続いている。

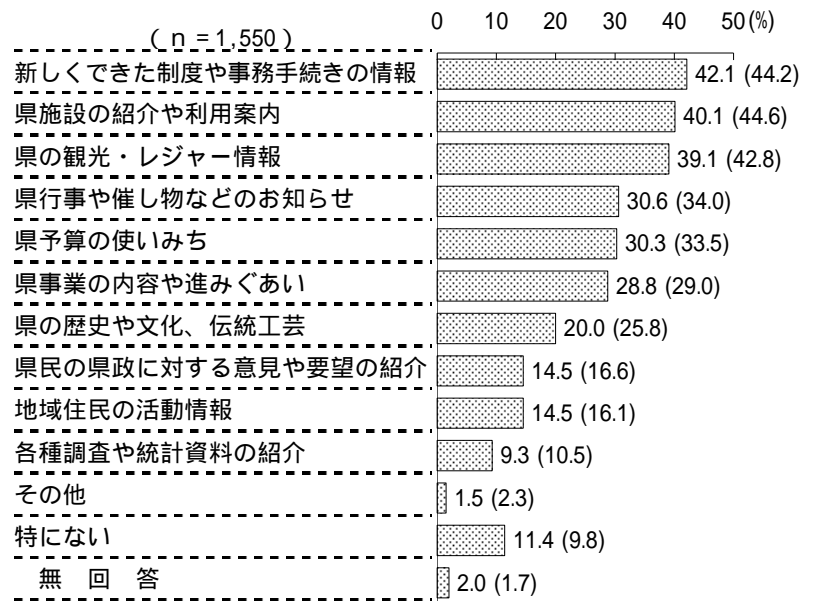


注) () 書きは、平成 23 年度の調査結果を示している。

(7) 県の知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

県の知りたい情報を聞いたところ、「新しくできた制度や事務手続きの情報」(42.1%)が4割を超えて最も高くなっている。以下、「県施設の紹介や利用案内」(40.1%)が4割、「県の観光・レジャー情報」(39.1%)が約4割で続いている。

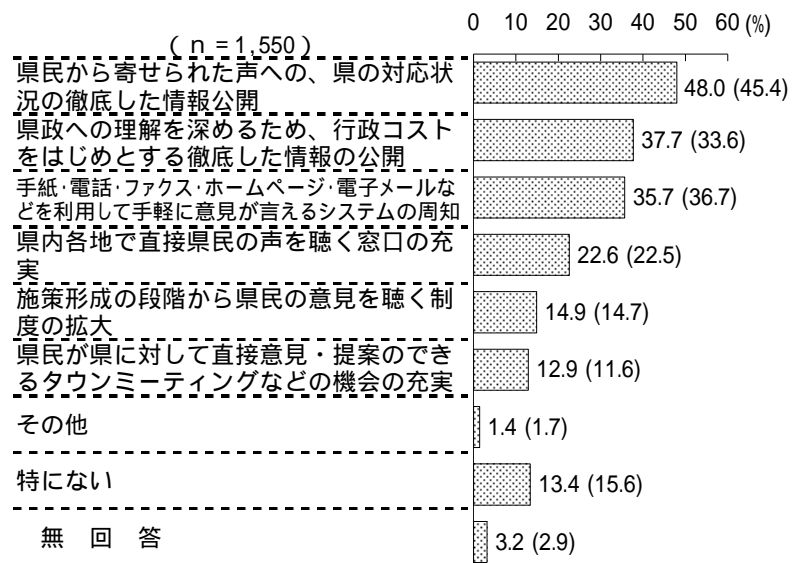


注) ()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(8) 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと

(複数回答：3つまで)

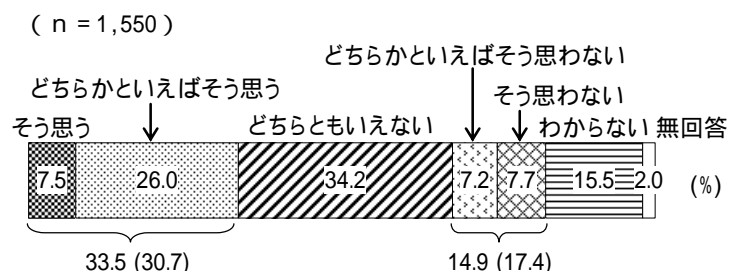
県政に対する意見を述べやすくするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」(48.0%)が約5割で最も高くなっている。以下、「県政への理解を深めるため、行政コストをはじめとする徹底した情報の公開」(37.7%)が約4割、「手紙・電話・ファクス・ホームページ・電子メールなどを利用して手軽に意見が言えるシステムの周知」(35.7%)が3割台半ばとなっている。



注) ()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

(9) 県政への意見の反映

自分の意見を県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(7.5%)と「どちらかといえばそう思う」(26.0%)を合わせた『そう思う』(33.5%)は3割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.2%)と「そう思わない」(7.7%)を合わせた『そう思わない』(14.9%)は1割台半ばである。



注) 下段の ()書きは、平成23年度の調査結果を示している。

【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、400人から延べ517件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った分野で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

県政全般に関する要望

市と県の一体感が感じられません。千葉県という大きな県ですが、それは1つ1つの市町が合わさってはじめて県となるのです。協力する市と県であってほしいと願うばかりです。

（女性、20～29歳、東葛飾地域）

道路を整備する

自宅周辺は歩道が少なく、車がスピードを出して走っていく道が多いです。子どもやお年寄りが安心して歩ける道路整備を望んでいます。（女性、30～39歳、葛南地域）

県政情報の発信や活動のPRについて

市政は身近に感じますが、県政はあまり分かりません。県の問題点・政策など県民にPRする方法を検討してみてください。（男性、65歳以上、東葛飾地域）

次世代を担う子どもの育成支援を充実する

今年、チーパスのカードを保育園から受け取りました。期限つきのもので、まだ小さい子がいるのでその後も続けてほしい。子育てしやすい環境がもっともっと増えると嬉しいです。子育て支援センターはよく利用しています。今後、仕事をはじめるとあたり、両立できるような体制の社会が増えることを期待します。（女性、30～39歳、香取地域）

便利な交通網を整備する

メトロや総武線があるが、東京へ通勤しようと思うと、混雑し過ぎていて不便。長期的に住んでいたいと思えない要因となっている。行政としてできることは限られているのは承知しているが、「千葉都民」が多数いることを考えると、できる施策は実行していかないと安定しないと思う。

（男性、20～29歳、葛南地域）

医療サービス体制を整備する

家族が救急病院の受け入れ先がなく、適切な処置の出来ない病院に長時間放置された為病状が悪化した。救急医療体制を整えてほしい。（女性、40～49歳、東葛飾地域）

学校教育を充実する

全国的にいじめ問題があるがはたして県内の学校で大きな問題がおきた時に子どもの学校の先生を見ていると不安ではある。あとは夜8時～10時に子どもだけで町中にいる所が見られ、誘拐されそうだと思う事が多々見うけられた。（男性、30～39歳、北総地域）

災害から県民を守る

災害対策・防犯対策に今後も注力して頂きたいと思います。災害対策については、普段の防災対策はもちろんのこと、有事の際、迅速な情報提供ができるよう、各市町村、また九都県市の連携を強化していただきたいです。（女性、20～29歳、東葛飾地域）

観光を振興する

国際空港がある利点を活かして、県内外の人・物の流れをもっと活性化すべき。千葉が通過点にならず、旅行者が目的地の1つに選んでくれる施策も必要。観光立国は千葉県がイニシアチブを取る位のことをやっても良い。（男性、30～39歳、北総地域）

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響から県民を守る

原発事故の除染や風評被害の対策は、迅速に県として対応してもらいたい。

（男性、50～59歳、東葛飾地域）

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、181人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

この世論調査にかかる費用に関する全ての事が税金からだと思うので無駄とにならないようにしていただければと願っております。（男性、30～39歳、東葛飾地域）

年令の質問が65才以上でくくっているが高齢者社会では70才代、80才代ともっと区切りを多くすることが必要である。私、現在79才。（男性、65歳以上、東葛飾地域）

問44で3つまでとしたのはなぜですか。限定してもいいのですが問45では全部について記入させた方がよい。問1では「住み続けるしかない」と言う項目も必要である。

（男性、60～64歳、安房地域）

調査協力依頼文に調査結果を公表するか、そのタイミング、方法について記述してほしい。

（男性、65歳以上、葛南地域）

無記名となっているが、記名式にした方がよい。記名の方が責任感が必要となるため、正確なデータとなる。無記名だと、適当に回答しておけばいいや...ということになりがち。

（男性、65歳以上、葛南地域）

通信インフラのある家庭には、インターネットを利用して実施するシステムを整備したらいかがでしょうか。確実な集計ができると思います。（女性、20～29歳、葛南地域）

回答はしましたが、自身の意向が十分に反映できる回答となったとは思っていません。設問と回答の設定も含め、これが県民の意見の一部としてまとめられることに、若干、不安を感じます。普段あまり考えていないこと等、回答は非常にあいまいな部分が否めない。

（女性、40～49歳、千葉地域）

調査の目的は、今後の県政運営に役立てるとありますが、具体的にどう活用し、どういう分野に役立てようとしているかわからないので明確にした方がよい。また質問が広範囲にわたり、どういうことをねらいに質問しようとしているか理解に苦しむ。（男性、50～59歳、東葛飾地域）

今まで、正直県政というものには全く関心がありませんでした。しかし、こういった機会をいただいたことによって、これからは自分が千葉県人だという自覚を持ち、県政というものに関心を持つと思えました。これからは、何かしらの形で、千葉県の更なる発展に貢献したいと思います。

（男性、20～29歳、君津地域）

質問の量が多過ぎ。正直、めんどろだった。テーマを絞った簡潔な質問の方が良いと思う。

（男性、40～49歳、北総地域）